

# 平成 31 年度（令和元年度） 全国学力・学習状況調査の結果について

令和元年 9月19日  
枚方市立杉中学校

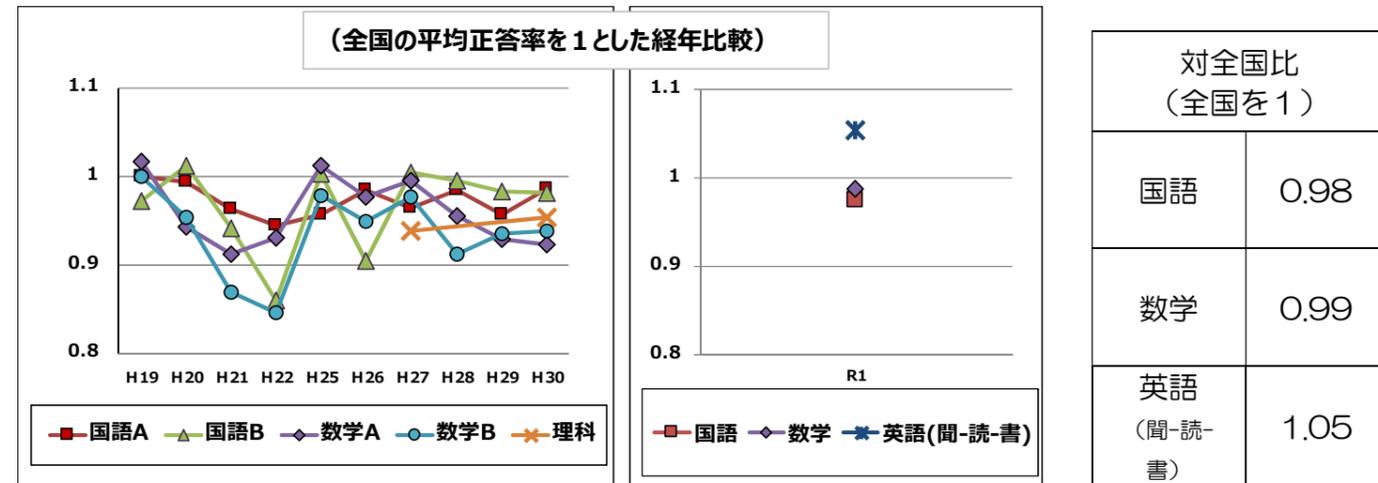
文部科学省が今年4月に実施した、平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、生徒の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

## 【全体概要】

### 学力調査の結果

※調査結果について  
教科や出題範囲が限られていることから、  
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較（対全国比）をお知らせします。  
（※今年度より、A・B問題が一体化されましたので、グラフを分けています。）



#### <学力調査結果の概要>

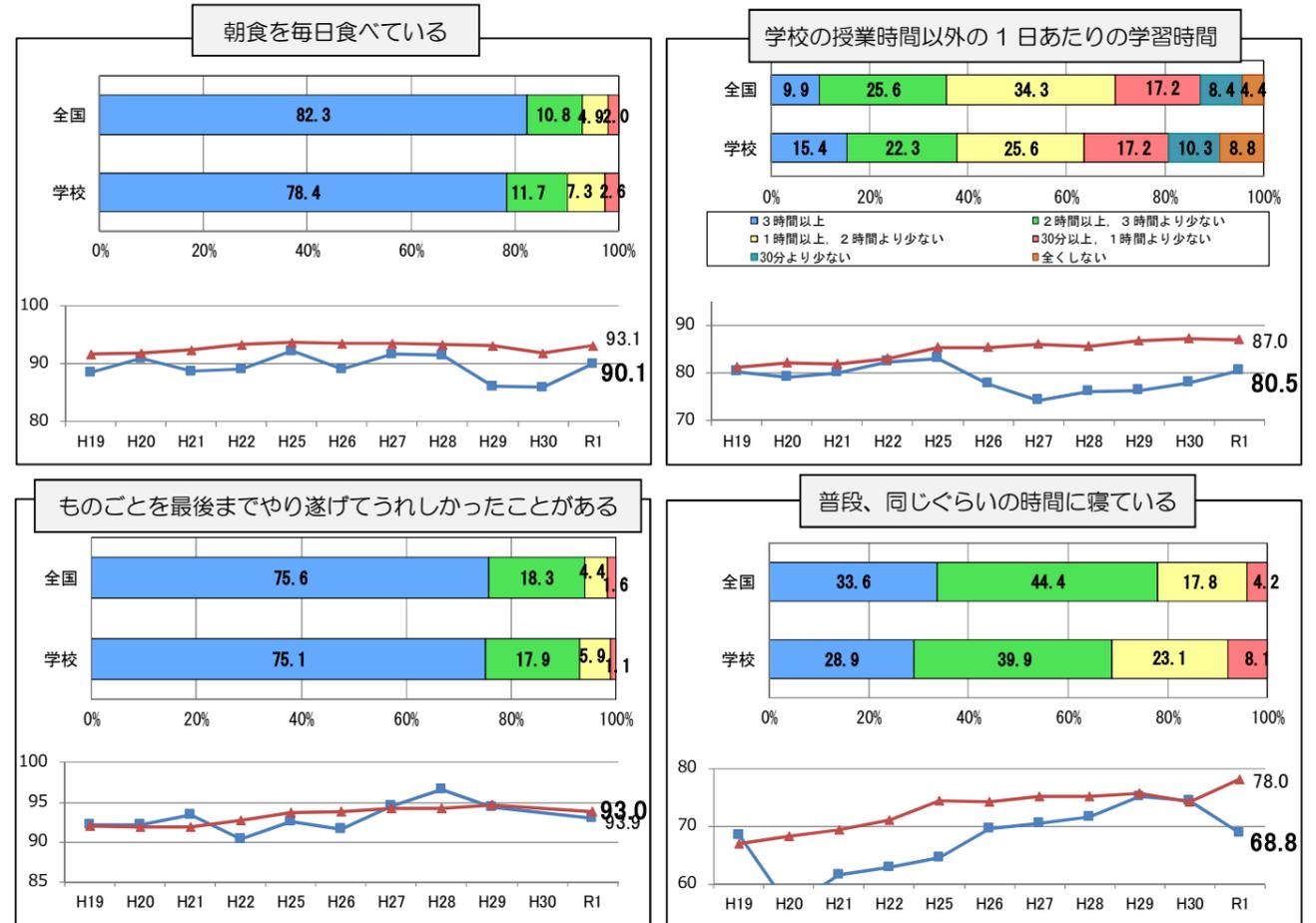
- 国語について → 全体的な平均正答率は、全国平均との大きな差は無かった。領域別では、書くことの得点が全国平均に比べても高く、作文などの取組を続けてきた成果であると考えられる。
- 数学について → 全体的な平均正答率は、府平均、全国平均と比べると±1ポイントで、大きな差は無かった。しかし、領域別では関数、評価の観点では見方考え方、問題形式では記述式において、正答率が5割を切っていたので、課題も多く見られた。
- 英語について → 無解答率が低く、生徒がチャレンジしてくれた。よりいっそうレベルアップするためには、会話の多い授業を継続し、まとまりのある英文を読ませたい。

※本調査は、平成19年度から実施されています。  
※平成23年度は中止（東日本大震災）、平成24年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため掲載していません。  
※英語の「話すこと」調査は、全国で実施していない自治体がある等、【参考値】として公表されることから、対全国比は掲載していません。

## 質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「あてはまらない」を示しています。  
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。  
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。



#### <質問紙調査結果の概要>

昨年よりも朝食の喫食率も向上し、生活習慣の安定がみられますが、睡眠時間にはばらつきがあるようです。家庭での学習時間も、毎年少しずつではあるが時間も伸びている。最後までやり遂げた経験をした生徒も多く、部活動などでの活躍も中学校生活での大きな自信に繋がっているものと考えられる。

## まとめ

学力調査の結果と、質問紙調査の結果には相関関係が見られるが、自己肯定感や有用感、規範意識などの質問紙調査の結果には、おおむね上昇傾向が見られるので、今後はそれを学力面につなげていく取り組みが必要であると考えられる。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

# 【詳細について】

## 教科に関する調査

<国語>

成果や課題があった設問

三 「みんなの短歌」に掲載されている内山さんの短歌、森川さんの短歌、松田さんの短歌の中から一首を選び、どの短歌を選んでもかまいません。その短歌を読んであなたが感じたことや考えたことを、【選者より】を参考にしながら、次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

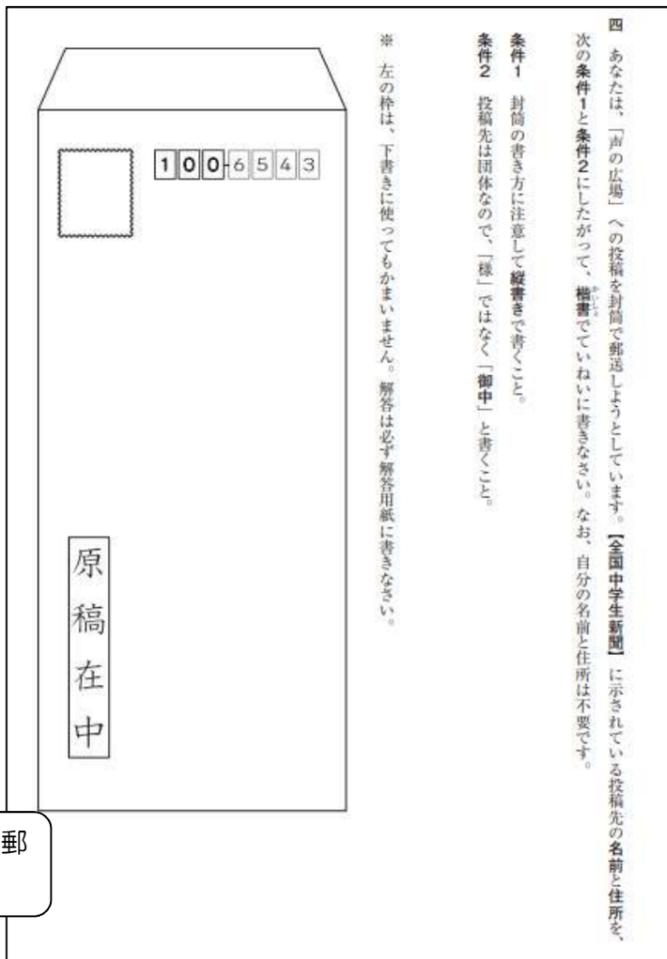
条件1 選んだ短歌の中の言葉を取り上げて、想像できる情景や心情を書くこと。

条件2 条件1で想像した内容について、あなたが感じたことや考えたことを具体的に書くこと。

【成果】 1三「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く

	正答率	無解答率
本校	92.0	0.8
全国	91.2	1.7

(考察)  
99.2%の生徒がこの問題に取り組むことができ、92%が正答している。2年次の短歌の授業では、班で一首を詠み深め発表してから、個人で鑑賞文を書いたことが実を結んだと考えられる。



四 あなたは、「声の広場」への投稿を封筒で郵送しようとしています。【全国中学生新聞】に示されている投稿先の名前と住所を、次の条件1と条件2にしたがって、楷書でいねいに書きなさい。なお、自分の名前と住所は不要です。

条件1 封筒の書き方に注意して縦書きで書くこと。

条件2 投稿先は団体なので、「様」ではなく「御中」と書くこと。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

【課題】 1四 「声の広場」への登校を封筒で郵送するために、投稿先の名前を住所を書く

	正答率	無解答率
本校	51.0	5.4
全国	56.8	5.6

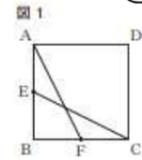
(考察)  
手紙の書き方の学習は1年次で行い、年賀状やお礼状も実際に書いてきたが、封筒の書き方については定着できなかったようである。

<数学>

成果や課題があった設問

【成果】 7(1) 証明で用いられている三角形の合同条件を書く

7 右の図1のように、正方形ABCDの辺ABの中点をE、辺BCの中点をFとします。真由さんは、線分AFと線分CEについて、次のことを予想しました。



予想1  
正方形ABCDの辺ABの中点をE、辺BCの中点をFとすると、 $AF = CE$ になる。

次の(1)から(3)までの各問に答えなさい。

(1) 予想1が成り立つことは、次のように証明することができます。

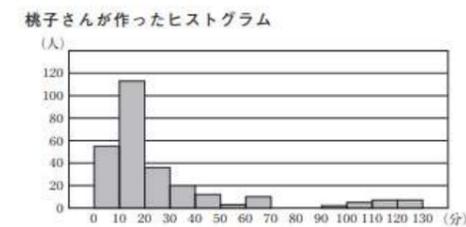
証明  
 $\triangle ABF$ と $\triangle CBE$ において、  
正方形の4つの辺はすべて等しいから、  
 $AB = CB$  ……①  
点E、Fはそれぞれ辺AB、BCの中点だから、①より、  
 $BF = BE$  ……②  
共通な角だから、  
 $\angle ABF = \angle CBE$  ……③  
①、②、③より、 $\triangle ABF \cong \triangle CBE$  がそれぞれ等しいから、  
 $\triangle ABF = \triangle CBE$   
合同な図形の対応する辺は等しいから、  
 $AF = CE$

上の証明の  に当てはまる言葉を書きなさい。

(2) 二人は、実施したアンケートをもとに、1日あたりの読書時間について、次のような表とヒストグラムにまとめました。桃子さんが作ったヒストグラムでは、例えば、1日あたりの読書時間が30分以上40分未満だった生徒が20人いたことを表しています。

航平さんが作った表

	平均値	最大値	最小値
1日あたりの読書時間(分)	26.0	120	0



二人は、上の航平さんが作った表と桃子さんが作ったヒストグラムについて話し合っています。

航平さん「1日あたりの読書時間の平均値が26.0分だから、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだね。」  
桃子さん「でも、ヒストグラムを見ると26分ぐらいの生徒が多いとはいえないのではないかな。」

桃子さんが作ったヒストグラムを見ると、航平さんのように「1日あたりの読書時間の平均値が26.0分だから、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだね」という考えは適切でないことがわかります。その理由を、桃子さんが作ったヒストグラムの特徴をもとに説明しなさい。

	正答率	無解答率
本校	84.7	4.2
全国	75.8	5.2

(考察)  
府平均、全国平均に比べて、約10ポイントほど高かった。一般的に苦手な生徒が多い証明分野において、重点的に指導した成果が得られた。一方で、多くの時間をかけて指導することで、他分野の指導が不十分にならないよう気をつける必要がある。

【課題】 8(2)「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する

	正答率	無解答率
本校	37.5	23.0
全国	40.8	21.3

(考察)  
数学用語を活用し、根拠を示して説明するという問題に対して、苦手とする生徒が多い。実際に正答率も4割を切り、また無解答率も23%（およそ4人に1人は無解答）の高さも浮き彫りになった。授業で知識定着を図り、ペアワークや半額集の対話を通して説明する力をつけていく必要がある。

<英語> 成果や課題があった設問

【成果】「話すこと」1(3) バスで登校する少年の絵を見て、交通手段を答える。

これから、「話すこと」の調査を始めます。問題は5問あります。問題音声がかかる回数は、全て1回です。解答は、全て英語ではっきりと話してください。

大問1 これから画面上にイラストが表示されます。そのあと、イラストについての質問に英語で答えてください。問題は、(1)から(3)まであります。それでは始めます。

7



(1) When is her birthday?  
(解答時間 6秒)



(2) What are they doing?  
(解答時間 6秒)



(3) How does he come to school?  
(解答時間 7秒)

	正答率	無解答率
本校	74.0	4.8
全国	参考値のため掲載していない	

(考察)  
74%の正答率があった。日ごろより即興での短い対話活動に取り組み、自分が伝えたいことを英語で伝える練習の成果が出た。

【課題】 書・読・聞 7 チンパンジーに関する説明文とその前後にある対話を読んで、聞き手が最も伝えたい内容を選択する

7 中学生の一部は、スミス先生 (Ms. Smith) と話しています。次の会話文中の ( ) に入る最も適切なものを、右の1から4までの中から1つ選びなさい。

Ms. Smith: Ichiro, why don't you read this article? It's interesting.  
Ichiro: Oh, thank you, but it's all in English. That's difficult for me.  
Ms. Smith: This newspaper is for students. Try reading it!  
Ichiro: OK.

[Ichiro reads the article.]

Chimpanzees are one of the smartest animals. They can do a lot of things. How smart are they? A team at a university in Japan found the answer. Some chimpanzees may be as smart as four-year-old children in some ways.

Few animals can understand *janken*. In *janken*, none is the strongest among *rock*, *scissors*, and *paper*. Learning about the relation among the three is very difficult.

The team tried teaching *janken* to seven chimpanzees. They showed pictures of two different *janken* hands to the chimpanzees. The chimpanzees got food when they pointed to the stronger one. Finally, five of the chimpanzees learned *janken*.

The team also tried teaching *janken* to some human children. They found that children could learn *janken* when they were about four years old. Through this study, they got the answer to the question: "How smart are chimpanzees?"

[A few minutes later]

Ms. Smith: What is the most important point in this article?  
Ichiro: ( ).  
Ms. Smith: Right. That is the main point.

(注) article: 記事 chimpanzee: チンパンジー four-year-old: 4歳の  
few: ほとんどない none is ~: いずれも~ない among ~: ~の中で  
rock, scissors, and paper: グー, チョキ, パー (じゃんけんの指の出し方)  
relation: 関係 human: 人間の study: 研究

- 1 Some chimpanzees may be as smart as four-year-old children
- 2 Few animals can understand *janken*
- 3 The team showed pictures of two different *janken* hands to the chimpanzees
- 4 The team found that children could learn *janken* when they were about four years old

	正答率	無解答率
本校	29.9	0.8
全国	32.8	1.0

(考察)  
まとまりのある英文を読み、作者の伝えたい内容を理解する問題。長文は苦手な生徒が多いので、ヒントの数などで調整して自信をつけていきたい。

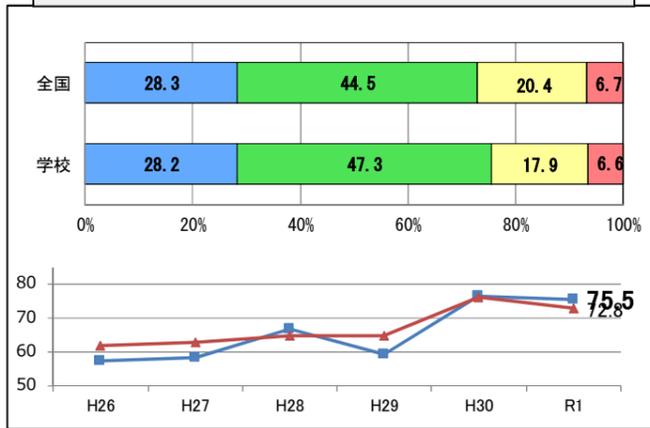
## 質問紙に関する調査

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「あてはまらない」を示しています。  
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。  
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

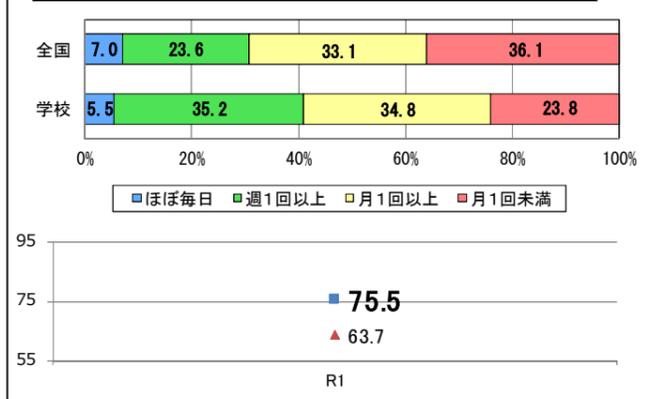


### 【成果のあった項目】

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている



1、2年までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか



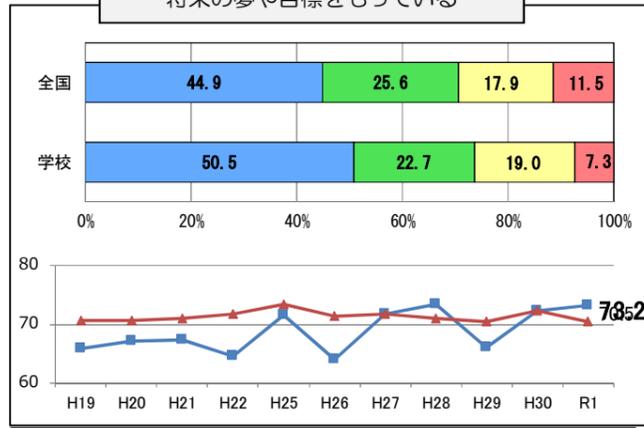
### (考察)

授業の中での話し合う活動が、自分にとって良い意味のある活動であると認識している生徒は、昨年に引き続き多く、授業での学び方の変化が生徒にも浸透していることがうかがえる。

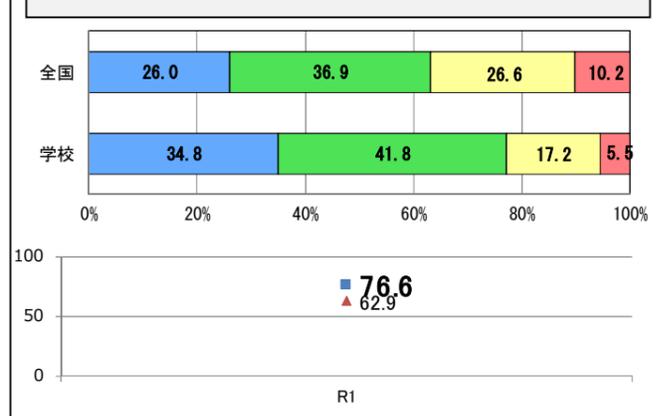
グループやペアでの対話、コンピュータなどのICTの活用や、英語での即興の対話など、それぞれの教員が授業の方法に様々な工夫を行っていることが、生徒にも伝わっているようである。

将来の夢や目標を持っている生徒も多いことから、前向きに学校生活に向かうことができていると考えられる。

### 将来の夢や目標をもっている

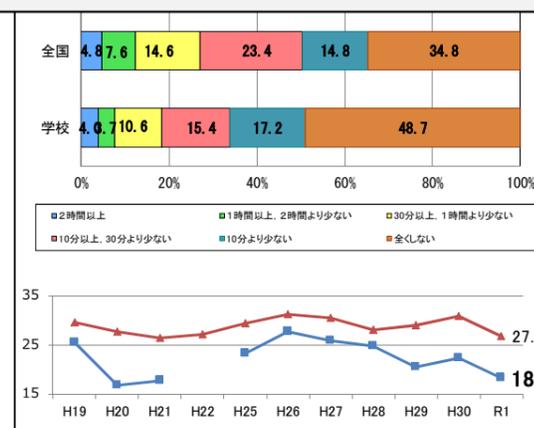


原稿などを準備することなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思う



### 【課題が残った項目】

#### 授業時間以外、普段(月～金)1日の読書時間



平日の読書時間は全国平均と比べても短く、またここには掲載していないが図書館の利用率も同じように低くなっている。この質問では、土曜日や日曜日などの休日の読書時間についてはわからないが、本を読むことによって様々な教養の幅を広げてもらいたいと考えている。話し合うことに対する肯定感は成果のあった項目で挙げたが、その工夫については全国平均よりも高いものの約6割程度の肯定であった。これを課題と捉え、今年度よりシンキングツールの活用によって思考力を高める取組を始めている。

## 分析結果を踏まえて今年度中に取り組みしていくこと

(1) 授業改善について 今年度より、シンキングツールを学校全体で導入し、思考を深めていくことに重点を置いた取組を始めている。シンキングツールについては、例えば理由を尋ねられたときに、これまで「なんとなく」と答えていた生徒が、根拠を持って発表できるようになったり、グループワークなどで対話するときに、議論の論点を明確化することができるようになったり、様々な効果がすでに現れている。今後も、教科、領域を問わずに活用の幅を広げていくものである。

(2) 学習規律について 今年度より、授業開始1分前のメロディーチャイムを発展的に解消した。これまではメロディーチャイムに頼って時間を守っていた部分があったが、メロディーチャイムが無くなった現在の遅刻は、むしろ昨年度よりも減少している。

(3) 家庭学習について 家庭学習の充実が引き続き課題であり、今年度はその時間や内容についてもさらなる検討と充実が必要になっている。宿題の量、頻度について見直し、家庭学習の時間を増やしていく必要があると考えられる。

### (4) 保護者のみなさまへ

文部科学省では全国学力調査の結果分析に加えて、保護者アンケートの結果をもとにした保護者の関わり方と学力の関連についての分析も行われています。(国立教育政策研究所/きめ細かい調査) これによると、保護者の関与と学力の相関関係が高いものとして①毎日子どもに朝食を食べさせている ②子どもと勉強や成績のことについて話をする ③子どもと社会の出来事やニュースについて話をする、の3つが顕著でした。一方④子どもに「勉強しなさい」とよく言っているについては逆の相関関係がみられています。また、小6調査時には関連が高かったのに中3調査時では学力との関連が下がっているものとして、⑤テレビゲームで遊ぶ時間を限定している ⑥計画的に勉強するように子どもを促しているの2点が顕著でした。これらを総合して考えると『中学生になるとある程度子どもの自主性が必要であり、生活習慣や計画性などは小学校の間にある程度身につけておくもので、勉強だけをさせようと思うのではなく、社会の出来事やニュースなどについて大人と話をするなかで幅広い興味や関心を持ち、それが勉強への意欲にも繋がるのではないか』と考えられます。

杉中学校では新聞4紙のコラムや中高生新聞を印刷したプリント『継続は力なり』を毎日配布して3年目になります。お子様が持って帰った『継続』をご家庭でも一緒に読み、ぜひ『このニュースどう思う?』と会話を進めてみてください。

授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や分掌、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う

